

新型肺炎

<重症急性呼吸器症候群:SARS>

H.

はじめに

新型肺炎は、広い地域、複数の国で発生しています。人の動きと関係があり、今のところ有効な治療法がない点が、大きな問題となっています。かつてないほどの家族内感染、院内感染を引き起こした危険な新興感染症です。

1 新型肺炎の始まり

2002年11月、広東省の古都仏山市で「謎の肺炎」が発生しました。インフルエンザのような症状で始まり、抗生物質が効かず、重症化する点が問題でした。2003年1月下旬に広東省の広州市でも流行が始まり、2月上中旬にピークをむかえ、3月には香港で大流行し、香港から6大陸に広がったのです。

WHOは3月、「重症急性呼吸器症候群(SARS)」と名付け、3月15日、広東省・香港への「渡航自粛勧告」を出しました。異例のことです。

日本では、3月12日のWHOの緊急情報の発表を受けて、即日医療機関等に周知をはかるとともに、検疫体制を強化いたしました。

さらに、3月15日に報告基準を示し、感染地域から帰国し、38 以上の発熱、呼吸器症状がある者を診察した医師に報告を求める体制を構築しました。

2 スーパー・スプレッダー

広東省広州市の病院で肺炎の治療にあたっていた64歳の教授が、自ら感染していることを知らずに旅行し、2月、香港のホテルに宿泊しま

した。症状が悪化した教授の痰、嘔吐物などの排泄物は、トイレや部屋の床に飛散したものとされます。ホテル従業員は、このトイレを清掃した後、同じ器具で別室を清掃したのです。そこに宿泊していたシンガポール人、カナダ人、ベトナム人に感染が広がりました。彼等は母国に病原体を持ち帰り、香港から海外への拡大を広めたわけです。

また、同じホテルで感染した中国人(26歳)が、病院に入院し、院内感染の感染源となりました。さらに同病院で人工透析中の男性(33歳)に感染し、この男性が弟のマンションを訪れ、集団感染を引き起こしたのです。

なお、香港で感染した男性が、香港から北京に戻る航空機内で複数の乗客らに感染を広げ、北京や内モンゴル自治区での感染拡大につながりました。男性は、北京市内の3か所の病院を受診し、それぞれ院内感染を引き起こしました。シンガポールでは、香港で感染した女性を通じ、100人以上が感染しました。

このように、複数のスーパー・スプレッダーの存在が、世界中に感染拡大を引き起こしたことになります。グローバル化に伴う感染症および公衆衛生の問題が表面化したといえます。

3 病原体

当初、中国衛生局は「クラミジア」と発表し、香港大学が3月20日に「パラミクソウイルス」と述べましたが、4月16日、WHOは「コロナウイルス」が原因と発表し、このウイルスを「SARSコロナウイルス」と命名し、電子顕微鏡写真を世界中に流しました。同日、香港大学の研究チームは、「食用にされる野生動物からの感染」の可能性を指摘しました。もともとは、豚の感染性胃腸炎、鳥の気管支炎などを引き起こすウイルスです。

なお、香港大学は5月、ジャコウネコ(ハクビシン)から、SARSウイルスに似たウイルスを発見しました。

4 コロナウイルスの特徴

コロナウイルスは、紫外線に弱く、飛沫で落下すると戸外なら短時間

で活性を失います。しかし、下痢便、尿などに含まれるコロナウイルスは、4～10日間位は活性があるため、接触感染にも注意が必要です。

コロナウイルスは、エンベロープという膜を有するウイルスなので、手洗いなどに消毒用アルコール(70%)、次亜塩素酸ナトリウム等が有効です。

5 感染経路

近距離からの飛沫感染および直接または間接の接触感染が主な経路です。すなわち、感染者の分泌物、排泄物などにウイルスが含まれます。

その他の感染経路も否定されていません。

6 潜伏期間

短くて2日、最長で16日、一般には10日前後です。

7 症状と予後

SARSの「疑い例」「可能性例」についてのWHOの定義が示されました。WHOの定義は知見の集積にともなって適宜更新されますので、日本医師会感染症危機管理対策室のホームページ(<http://www.med.or.jp/kansen/>)等を参照下さい。

SARSの症状と予後は、以下の通りです。

- 1) ウイルスの増殖とともに発症。悪寒を伴う38 以上の高熱が多く、倦怠感、咳を伴う。
- 2) 免疫系の過剰な反応で急激に悪化し、ほとんどが両側の肺炎を引き起こし、呼吸不全にて人工呼吸管理が必要となる。
- 3) 発症後1週間位で回復する人が多い。
- 4) 死亡率は、全体として10%前後である。

8 SARSの検査方法

一般の血液検査、血清学的検査、PCRなどの検査が行われています。

かくたん
喀痰洗浄液からSARSコロナウイルスが検出、同定できれば確定されます。

9 治療

現在、有効な抗ウイルス薬は存在しません。抗ウイルス薬のリバビリン、副腎皮質ホルモン剤の使用は議論を呼んでいます。ワクチンも開発までに数年必要です。

呼吸困難症状には、人工呼吸器が必要となる場合もあります。

10 SARSへの対応

- 1) 感染拡大を防止するため、海外で発病したら、現地での指定医療機関に入院するのが原則です。
- 2) 感染地域から帰国し、少しでも疑わしい、あるいは可能性があったら、必ず事前に、電話で保健所、医療機関等の相談窓口にご相談する。
- 3) 医師の指示に従い、マスクをし、指定された医療機関を受診する。
- 4) 家族内感染の可能性もあり、自分との接触者も検査してもらう。

11 自衛手段

海外にて流行情報が入ったら、速やかに帰国しましょう。なお、自ら感染していることもあるので、帰国後10日間(潜伏期間)は、家族、職場から自分を隔離します。

基本的な予防対策として、石けんによる手洗い、うがい、マスク着用などに心がけましょう。マスクは一般のマスクでかまいませんが、感染者の近くでは、N-95マスクが望ましいでしょう。

12 海外旅行

WHOや日本の外務省が「渡航延期勧告」を出している地域への旅行は、当分延期しましょう。

平成15年7月10日追補